

平成22年度一般会計当初予算説明資料

3款 民生費

2項 児童福祉費

子育て支援総室(内線:7572)→事業実施:子育て支援総室[子育て応援室]

1目 児童福祉総務費

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 未来のパパママ育み事業	(5,000)	(0)	(5,000)			(基金繰入金) (5,000)		
トータルコスト	5,807千円 (前年度 0千円) [正職員:0.1人 非常勤職員:0人]							
主な業務内容	関係機関との連絡調整、委託契約、委託料支払事務							
工程表の政策目標(指標)	地域で子育てを応援する機運の醸成を図るとともに、子育て家庭への総合的な支援施策を展開する。 十代の人工妊娠中絶実施率を下げる。(十代の人工中絶実施率6.0)							

事業内容の説明

【「鳥取県安心こども基金」充当事業】

1 事業の目的・概要

近い将来、結婚適齢期・妊娠適齢期を迎える高校生等に、親となるための自覚と子育てへの関心・理解を深めてもらうことを目的とした「未来のパパママ育み出前教室」を実施し、少子化問題の主な要因である未婚・晩婚化に歯止めをかける。

2 主な事業内容

高校生に結婚・妊娠・子育て等に関する知識・情報を提供し、自分のライフプランを描いてもらうことで、将来、親となるための自覚と子育てへの関心・理解を深めてもらう。

【事業主体】 県 (県助産師会に委託)

【概要】 未来のパパママ育み出前教室

(1) 事業対象 原則高校3年生(希望があれば大学生も対象とする)

(2) 事業内容 助産師が学校に出向き、いのちの大切さと次世代にいのちをつなぐための心構えを手作り教材で伝える。

[実施回数 90回(概ね1~2学級毎に実施) × 60分授業]

<出前教室メニューの一例>

- ・胎児心音、産声、出産時の家族の喜びの声を聴いたり、妊婦疑似体験、新生児(人形)抱っこ等により、いのちの重みを体感。
- ・自分のライフプランを描き、人生設計について考える。
- ・妊娠・出産・育児等に関する正しい知識と情報について、助産師が関わった実例をあげながらの分かりやすい講話により習得。

※次代の親づくりの観点から、結婚・出産・子育ての適齢期等自分の将来のライフスタイルを考え、親となる自覚と少子化への理解を深める内容とする。

3 これまでの取組状況、改善点

少子化の要因としての未婚・晩婚化が深刻な問題となっているが、結婚観が変化し、「結婚しなくてもよい」「子どもを持つ必要はない。」とする若者が増えている。

未婚・晩婚化対策には、出会いの場づくりだけでなく、若者自身が人生設計を考え、親となるための自覚を持つきっかけづくりも必要。

教育委員会においても、未来の親となるための学習に取り組んでいるが、出産や子育てに直接携わる助産師による講話や体験学習を実施することで、より効果が期待される。